
新しいストーカー

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新しいストーカー

【NZコード】

N6089H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

私は女子大生。ストーカーに怯える毎日。

私は某私立大学に通う女子大生。

容姿は普通。

だと思う。

スタイルも普通。

だと思つのだが・・・。

そんな私の周囲に妙な男がいるのに気づいた。

大学へ行く途中、帰宅途中と必ず後ろから歩いて来る。

まさか？ まさか、まさか、まさか？

これってストーカー？

あり得ない、あり得ない。

後ろを歩いている男って、パツと見だけど「イケメン」。

私のような特徴のない普通の女を追い回すほど困っているような顔ではない。

必死に否定した。

しかし現実は悲しい。

そいつは確実に私をつけている。

今日もいる。

歩調もピッタリ。

私が立ち止まると歩くのをやめる。

私が角を右に曲がると馬も右に曲がる。

間違いない。

ストーカーだ。ストーカーだ。ストーカーだよ！

どうしよう？

警察に届ける？

でも、何もされていないから、警察も取り合ってくれないだろう。

怖い。怖い。こわいけど、どうする事もできない。

そんな日が一週間ほど続いた。

今日もいる。私の後ろに。

「そのままじや、気が変になりそうだ。

何か考えないと・・・。

不安の絶頂に達していた私は、歩く速度を速めた。

あれ？ 男は歩くのをやめたよ！

ついて来ていない。

どうしたの？

ふと前を見るとおまわりさんが2人立っていた。

そうか、だからつけるのをやめたんだ。

私はホッとしておまわりさんに近づいた。

するとおまわりさん2人は私を見上げた。そしておまわりさんの
1人が言った。

「貴女ですね、届出があった方は。毎日あの男の人の前を歩き回る
のをやめもらひませんか？ 彼が怖がっているんです」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6089h/>

新しいストーカー

2010年11月19日16時57分発行